



平成29年5月7日

今年の連休は全国的な好天にめぐまれ、爽やかな新緑につつまれましたが、会員の皆さまもますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

遠く残雪を残す飯豊の連山を背に、山桜の淡いピンクがやわらかな緑に点在する豊実周辺も見事な風景でした。駅前大きな八重桜も、久しぶりの我われを満開で迎えてくれました。

5日（金・こどもの日）に開催された総会には、新潟市内、福島県喜多方市、関東首都圏方面から会員の皆さんが参集し、和彩館は20名近い人びとで賑わいました。

お陰さまで、平成29年度の通常総会は三つの議案が承認され、無事終了いたしました。挨拶に立った佐藤賢太郎・理事長は、昨年度の総括と今年度の展望にふれて、NPO 法人コスモ夢舞台のこれまでの実績とこれからの道筋を力強く述べて、出席者の拍手を浴びました。

今回は例年の春の農業体験とは異なり、石夢工房の「桃源の湯」の修復工事と「木小屋」の建設が一大イベントでした。新しい煙突の溶接取り付けと、ボイラーをつつむ耐熱煉瓦の張替え、冬場の薪の収納とアート展の作品づくりの工房ともなる木小屋の新設は、それぞれになかなかの力仕事でした。

皆さんも汗を流しながら、そのどれもがコスモ夢舞台流の“あるものを生かすモノづくり”であることを改めて実感されたのではないのでしょうか。

さらに我われの創造は、ウーファーとして逗留された外国人や県内外の皆さんの手も借りて、地域づくりにもつながっているという喜びは格別でした。

アート展やシンポジウムの機会に、ぜひまた豊実でお会いしましょう！

（事務局/森絃一）

<直近のイベント予定>

- 佐藤賢太郎・講演会 6月24日（土）11:00～15:00 芝浦工業大学（東大宮）
主催：芝浦工業大学ラクビー部OB会 後援：NPO 法人コスモ夢舞台
- 佐藤賢太郎・個展 8/5日（土）～13日（日）須賀川市「ギャラリー・マスガ」
（「ギャラリー・マスガ」での個展開催は9年ぶりです）

特定非営利活動法人 コスモ夢舞台
平成29年度通常総会 次第

日 時 平成29年5月5日（水） 午後1時30分 ～

場 所 阿賀町豊実 「和彩館」

議 題

- 1 第1号議案 平成28年度事業報告及び決算について
- 2 第2号議案 平成29年度事業計画及び予算について
- 3 第3号議案 賛助会員会費の変更について
- 4 その他

第1号議案

2016年度 事業報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

特定非営利活動法人コスモ夢舞台

1 事業の成果

(1) 第13回「里山アート展」(10/1～10/22)の出品点数は40点となった。今年も、「アートと生活」～誰でも楽しみ、挑戦する～をテーマに、郡山の障害者グループや日出谷小学校全校児童の出品参加などがあり、賑やかな開催となった。

(2)「田んぼ夢舞台祭り」も里山アート展のオープニングイベントとしてすっかり定着した。阿賀町の神田町長他の来賓を迎え、素晴らしい秋空の下で、子どもからお年寄りまで地元の芸能や音楽を楽しんだ。

(3) 佐藤賢太郎・講演会Ⅰ【食と健康】は、4月30日(土)さいたま市緑区のプラザ・イーストで開催された。モロッコからの帰朝報告を兼ねた佐藤賢太郎の講演と佐藤マキ子の料理教室(玄米菜食)の二部構成は大変好評を得た。佐藤賢太郎・講演会Ⅱは「里山アート展」の終了した翌日、阿賀町津川の「狐の嫁入り屋敷」で開かれた。【豊かさとは何か?】を、お集まりいただいた地元の皆さんと移住者、首都圏方面の方々と語り合った。

2 事業に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲および人数	備考
A 里山アート展	公募の野外作品展	10/1 ～10/22	豊実田んぼ	50人	主催団体、客演プロ、客演アマ、団体 計40人 来場者500人	
B 田んぼ祭り	地元の芸能音楽祭	10/1	〃	40人	15団体&個人 見物客200人	
C 佐藤賢太郎講演会	Ⅰ「食と健康」講演と料理教室	4/30	プラザ・イースト(さいたま市)	20人	50人	
	Ⅱ「豊かさとは何か?」	10/23	狐の嫁入り屋敷(津川)	12人	20人	

平成28年度収支決算書

科 目	H27	H28	備 考
I 一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
経常収益			
受取会費	421,000	414,000	
正会員会費収入	421,000	408,000	
賛助会員会費収入		6,000	
受取補助金等	1,767,000	844,000	
受取助成金	1,767,000	844,000	
受取負担金	134,000	169,000	
受取参加費	134,000	169,000	
受取寄付金	177,000	745,300	
協賛金収益	177,000	240,000	
支援金収益		505,300	
雑収益	1,681,585	5,029,038	
受取利息	59	38	
雑収益	1,681,526	5,029,000	
経常収益計	4,180,585	7,201,338	
経常費用			
事業費			
旅費交通費	197,760	193,280	
通信運搬費	25,722	20,332	
設営・舞台費	423,321	488,755	
消耗品費	333,956	406,972	
事務消耗品費	6,581	15,367	
修繕費	306,304	43,980	
印刷製本費	248,400	32,400	
燃料費	46,030		
諸謝金	495,000	838,000	
委託費	384,000		
雑費	21,052	1,620	
小計	2,488,126	2,040,706	
管理費			
渉外費		28,210	
旅費交通費			
通信運搬費	202,980	191,316	
消耗品費		82,588	
事務消耗品費	16,182	577,547	
修繕費	229,262	577,547	
印刷製本費		81,160	
燃料費		43,496	
保険料			
諸謝金			
委託料	11,000		
租税公課			
雑費	95,778	66,790	
小計	555,202	1,071,107	
経常費用計	3,043,328	3,111,813	
差 引	1,158,973	4,089,525	
期首正味財産	△6,455,164	△5,296,191	
期末正味財産	△5,296,191	△1,206,666	4

2017年度 事業計画書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

特定非営利活動法人 コスモ夢舞台

里山アート展の会場となる「田んぼ夢舞台公園」の環境整備と、ひきつづき新たな景観づくりにも取り組んでいく。また、佐藤賢太郎講演会やシンポジウムでは「未来への希望」、「豊かさとは何か？」をテーマに、地域創生にもつながる“楽しい田舎暮らし”の提案を行う。

1 「第14回里山アート展」の開催

豊かな自然に学びながら人とひとを繋ぎ、共に生き方を問い直そうと、第1回以来「循環・再生・創造」をテーマとして10年間開催してきた。第14回目を迎える今年は、昨年に続き「アートと生活」～誰もが楽しめ、挑戦できる～をテーマに開催する。

アートが身近な暮らしに溶け込む豊実の集落を、県内だけでなく隣接する近県や関東首都圏にPRしていく。

2 「田んぼ夢舞台祭り」の開催

里山アート展のオープニング・イベントとして開催している「田んぼ夢舞台祭り」も郷土の芸能発表会として定着しつつある。地元をはじめ、県内外の団体や愛好家の出演協力を得ながら開催する。

3 佐藤賢太郎講演会とシンポジウム

佐藤賢太郎の母校（芝浦工業大学大宮キャンパス）で、講演会を開催する。都市との交流による地域の活性化は我々の願うところだが、過疎の集落における豊かな田舎暮らし・賢い生き方について身近な食と健康をテーマに、首都圏の皆さんと語り合う。

また、シンポジウム（秋に2回予定）では、豊実への移住・定住者への支援についても、NPO法人コスモ夢舞台の取り組む実例を参考に、地元と都市部の皆さんで語り合う。

2017年度 活動予算書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

特定非営利活動法人 コスモ夢舞台

1 収入		
科 目	予算額	内 訳
会費	474,000	12,000 × 39人=468,000 3,000 × 2人=6,000
助成金	717,000	日本芸術文化振興基金167,000 新潟日報美術財団50,000 阿賀町(森林保全)500,000
協賛金	200,000	個人及び企業20人(社)
参加費	45,000	アート展出品参加費 3,000 × 15人 =45,000
雑収入	46,000	
合計	1,482,000	
2 支出		
科 目	予算額	内 訳
里山アート展	608,000	会場設営費425,000、謝金等120,000、ポスター等50,000 通信13,000
田んぼ夢舞台祭り	174,000	参加者の出演料
講演会と シンポジウム	170,000	講演会1回、シンポジウム2回の会場費
森林保全事業	500,000	謝金等300,000、消耗費200,000
事務局費	30,000	会報等の印刷・送料、消耗品費
合計	1,482,000	

第3号議案	
賛助会員会費の変更について	
定款第8条の規定により賛助会員会費を次のとおり改める。	
1 変更内容	
賛助会員会費について、年額「2000円」を「3000円」に変更する。	
2 変更理由	
自主財源の増を図る。なお、現賛助会員全員から了解を得ている。	
3 新旧対照表	
新	旧
3,000円	2,000円

団体名又は氏名	NPO コスモ夢舞台 <small>ユメ フタイ</small>		
所在地又は住所	都道府県名	市区町村名	番地
	ニガタケン 新潟県	アガマチ 阿賀町	トミ オフ 豊実乙1036
連絡先 (電話・Fax・E-mail)	電話 : 0254-96-2003		
	Fax : 0254-96-2003		
	E-mail :		
代表者名	サトウ ケンタロウ 佐藤 賢太郎		
ホームページURL	www.cosmoyume.net		

〇団体の活動概要

【活動の背景、内容等】

①活動を始めるに至った地域の背景や取り組みの素地、活動のきっかけ

当団体の代表である佐藤氏は、2004年まで埼玉県を中心に芸術活動をされ、その後生まれ故郷である阿賀町豊実にて拠点を移し、活動しています。故郷の少子高齢化は著しく、それに危機感を抱いた佐藤氏は、生まれ育った「ふるさと」再生のため、様々な人々との交流を通じて夢のある空間「桃源郷」づくりを目指すこととし、本活動の取り組みを始めました。佐藤氏のかつての高校教員時代の同僚や、芸術活動に対する後援者、生き方や夢に対して共感する人々で構成される「ふくろう会」を進展させた形で、「コスモ夢舞台」が立ち上がり、特性である豊かな自然や人材を生かし、都市部の人びととの交流によって、ここにしかない「魅力ある田舎」を創っています。

②活動内容

コスモ夢舞台は、「感動ある人間交流」、「一人一人が輝く」、「本物と向き合う」をモットーに、会員が過疎化の進む地域で古くなった建物を自分たちでリフォームし、アートギャラリーや食事処、宿泊所などをつくり、各種イベントやシンポジウムを開催しています。これらの活動に一貫していることは、奥阿賀豊実の自然環境を活かした、アート・教育・農業(食)・地域再生を巧みに組み合わせ、地元小学校から都市圏の学生はもとより、体の不自由な方々も受け入れられるように熱心に取り組んでいることです。ほとんどの活動が、大きい費用をかけるのではなく、豊実である自然を十二分に活用して取り組まれています。

春は味噌づくり体験から始まり、無農薬米の田植え、螢の音楽祭、夏は関東圏の子供たちを受け入れ体験学習、秋は稲刈り後の田園を利用してのアート祭と四季を通じて、魅力ある田舎を演出しています。

近年では、これらの自然を活かした取り組みが海外からの訪問者からも注目され、日本を訪れた際に農泊するまでに至り、それらの活動が魅力ある田舎づくり活動が実り 都市圏からの移住し充実した生活している人がいます。

<活動概要>

- (1) 過疎における活力ある地域づくりにつながる活動
- (2) 文化、芸術の振興を図る活動…里山アート展、都市からの作家参加の促進、豊実の情報発信、田んぼ夢舞台祭り、地元と県内外の芸能参加で楽しむ祭り
- (3) 食・農を考え、移住後も充実した生活の為の特産品作り…田舎でつくる安全、安心食物の大切さ・魅力発信、移住定住を促進するうえで必要な生活の糧となる特産品づくり
- (4) 子どもの健全育成を図る活動、地元のアート展開催やピクトー作り、都市部少年の田舎での体験教室

③苦労話や課題など

コスモ夢舞台の立ち上げ当初、外部との交流があまりなかった地域に、それまで佐藤氏の在住していた関東圏の人脈が応援者として多く駆けつけたことから、地元住民が地域振興の取り組みを理解することに時間がかかった経緯があります。それらは、活動を続けていくことで次第に地域住民の関心が得られ、区長や協力者が参加するようになったこと、また、2009年から、より地域住民に身近なイベントとするため、郷土芸能を披露する祭りをアート展のオープニングに始める等して住民が参加しやすい環境をつくったことも要因となり、現在の里山アートなど様々なイベントが地域住民と一体的に開催できるようになりました。ですが、これらの活動を事項するためには、資金が必要です。さまざまな補助金を活用して実施していますが、思う活動が実施できていないのが現状です。

【活動形態】 ※該当する項目の番号を入力してください。

1	2	
行政との協働型	住民主体型	2

【活動分野】 ※一番近い番号を1つだけ入力してください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	「9」の場合 活動分野を 記入
文化・歴史 資源の継 承・利活用	環境資源の 保全・活用	国際交流	観光振興	地場産品の 普及・促進	都市・農村 交流促進	商店街の 活性化	地域連携・ 地域おこし	その他 →	
									6

【活動における各種視点】

①活動の広がり

当初より「魅力ある田舎」づくりのテーマとして、アート・教育・農業の振興が地域おこしにつながるとして継続してきました。そのため、当団体に共感し田舎の魅力を体験・協賛している団体は数多に広がりました。もともと芸術家である佐藤氏は元の拠点であった関東圏はもとより、ギリシャとの交流も深く表彰を受けたほどであり、海外からの注目されているとともに、元教員であったことから教育への造詣も深く、関東圏の学生や新潟大学生などへ田舎の魅力を伝えることに熱心に取り組まれている。それらの活動を継続的に実施してしてきた結果、都市圏から移住して活動を応援する人が出てきたほどである。
また、様々な人々と交流してきた実績を活かし、都市圏からの除雪ボランティアを受け入れ、地元高齢者宅の除雪の一助にもなり、その活動の幅は内外に広がっている。

②継続性

当団体は以前は任意団体として地域おこしを実践してきました。その後、2010年に組織としての役割分担・会員との相互理解を深め、また新規会員の受け入れを分かりやすくするためにNPO団体として立ち上げ、現在も活動しています。地元の若手も徐々に活動に魅力を感じ新規会員として加入して、若返りもみられています。今後は魅力を発信するだけでなく、現在実施している移住後の生活の糧となり得る、特産品開発に力を注いでいく。それにより、会の充足が図られ発展的拡充が図られる。

③地域資源の活用

組織のコンセプトの一つとして、今使われていないものを活用する。捨てられるものを活用できないか検討するを実践しています。主に実践してきた内容として
・空き家をギャラリーへ利用・・・集落内の使われていない民家を組織のメンバーの手作りでリニューアルを実施しています。田舎の魅力を損なわないためにお金を掛けず、テーマの一つであるアートでの地域振興を担っています。
・特徴ある作物の利用・・・地域振興の一つである食では、秋に収穫されていない渋ガキの利用があります。収穫されずに放置されていると猿害の増長となる可能性があります。それらを収穫し柿酢として加工することにより被害を事前に防止し、特産品に活用されることが期待されています。また、自家製の「無農薬米」の粉末や町の推奨作物である「エゴマ」を利用した、健康に特価した商品の開発に注力している。

④創意工夫

当団体は、規模は大きくないものの誰でも楽しめるようにと常に心掛け、イベントの構成・会場の整備を実施してきました。
・イベント会場の整備・・・里山アート展示場の田圃田んぼの畦道をコンクリートで平滑にする整備も実施しており、お年寄りはもちろん、車イスを利用してまで近くまで鑑賞できるまでになっています。この整備は業者に任せるのではなく、会員の手作りで実施しています。
・イベント・・・「魅力ある田舎づくり」をコンセプトに今ある資源を結びつけるという理念から、お金をかけてゲストを呼ぶのではなく、自ら参加したいという意識づくり力を入れてきました

⑤成果

・使われていなかった田んぼ・水路を復活させ、蜚や稲刈り後のアート作品を鑑賞できるまでに至った。それにより稲刈り後使われていなかった田んぼも、作品展示場となり町内外からお客様が訪れる地域となりました。
・森林資源を利用して、関東圏及び近郊都市から生徒・学生を受け入れ、間伐作業や薪割り等の体験学習を通過して田舎の魅力を感じてもらうことができた。
・少子高齢化が特に顕著な豊実地区に地域おこしの可能性を示し、若者を共感させ地域ぐるみでの振興を実践している。
・移住後も生活ができるように、様々な特産品づくりを精力的に開発しており、その結果、移住者を招くことに成功した。

【その他】

構成メンバーは、地域住民が10人、地域外の人が30人となっている。豊実の若い世代でつくる「わけしよの会」も力となって活動に参加しているほか、地元の日出谷小学校の児童らと一緒に作品を作ったり、地域学習で豊実を訪れた新潟大学の学生らも作品を出品したりと、交流の輪を拡大させながら桃源郷の実現に向け、着実に前進している。
平成22年度「緑化功労者表彰」(主催:(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会)
平成25年度「ぎっと賞」(主催:特定非営利活動法人 新潟NPO法人)

【活動状況】

活動開始年(西暦)	2010	年	5	月	※)活動を始めた年月をご記入下さい。(19XX、20XXなど)
年間活動日数(約)	60	日程度	※)大まかな活動日数をご記入下さい。(週1回程度の活動であれば、約50日など)		
活動メンバーの人数(約)	40	人	※)活動に積極的に取り組んでいるメンバーの方の数をご記入下さい。		
参加者数や集客数、売上高など(約)	26年度	27年度	28年度	単位	※)例えば、活動への参加者数、イベントでの集客数や売上高などをご記入下さい。(過去3年分)
年間観光客数(豊実地区)	430	500	500	人	
団体が会社形態の場合は、以下について記入して下さい。					
前年度収入額		万円	※)収支報告額(概算で可)をご記入下さい。		
(内利益額)		万円	※)営業利益額(概算で可)をご記入下さい。		

		団体名	NPO コスモ夢舞台		(3/3)			
推薦市区町村名	アガマチ 阿賀町							
市区町村面積	952.88 km ²							
※) 「平成27年全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)」により、表示単位は平方キロメートルとし、小数点以下第2位までの数値を入力。								
市区町村人口(人)	H27年 11,680	H22年 13,303	H17年 14,703					
年齢別人口構成 [H27国調]	老年人口 45.4%	老年人口 41.5%	生産年齢人口 48.7%					
産業別就業者数構成	第1次 %	第1次 8.5%	第2次 32.5%					
※1) 人口は国勢調査による。 ※2) 老年人口とは満65歳以上の人口。生産年齢人口とは満15以上満64歳以下の人口。年少人口とは満15歳未満の人口。								
【地域の概要】								
<p>阿賀町は、新潟県の東部に位置し、県都新潟市から東へ磐越自動車道で約35分、一般国道49号では約60分で町の中心部に到達する距離にあり、町の東側は福島県の県境と接しています。</p> <p>町の中央を阿賀野川とその支流の常浪川が流れ、その沿岸の段丘を中心に開けた山間地域です。中心部は比較的平坦ですが、周辺は急峻な山岳地帯に囲まれており、北に大きく飯豊山塊が広がり、北西には越後山脈が南北に走っています。面積は952.88平方キロメートルで、新潟県面積の約7.6%を占めています。その中で、当団体が活動している阿賀町豊実地区は、世帯数137戸、人口270人(そのうち高齢者数178人、高齢化率65.9%)で、町内でも高齢者が多い地区です。福島県との県境にあることから、生活圏としての交流の歴史もありません。</p>								
【団体の種類】 ※該当する項目の番号を1つだけ入力してください。								
1	2	3	4	5	6	7	8	
市町村など公共団体	一般財団法人や一般社団法人など	特定非営利活動法人(NPO法人)	町内会など自治会	協同組合や企業組合など	株式会社や有限会社など(第3セクター)	株式会社や有限会社など(民間)	任意団体	3
【団体の概要】								
<p>・代表である佐藤氏が活動拠点としていた関東から現在の阿賀町豊実へ拠点を移し、田舎の魅力づくり・地域振興を任意団体として活動してきました。</p> <p>その後、2010年にNPO団体を立ち上げ、アート・教育・農業・地域再生をテーマとして地域振興を実践してきました。活動範囲は広く、地元・近郊都市にとどまらず関東圏まで、阿賀町豊実の魅力を伝え歩いています。それら精力的な活動に共感をうけ地元の青年・若者も会の活動に参加し地域ぐるみでの活動を行っています。</p>								
※) 推薦事例が個人の活動の場合は記入不要。								
【団体の規模】								
団体設立年(西暦)	2010年		5月					
役員員数	12人		会員数	28人				
年間予算	300万円							
※) 推薦事例が個人の活動の場合は記入不要。 ※) 団体設立年月欄には、法人格などを取得し現在の体制を始めた年月をご記入下さい。(19XX、20XXなど)								
【連絡先】								
(市区町村担当部課)	阿賀町役場 鹿瀬支所							
(担当者: 役職・氏名)	主任 佐藤高博		(電話)	0254-92-3330				
(E-mail)	sato_thr3667@town.aga.lg.jp		(Fax)	024-92-0081				

参考資料の有無

図表	写真	新聞記事
○	○	○